

令和5年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A232001 力学入門	基本的な静定構造物（片持ち梁、単純梁、静定ラーメン構造物、静定トラス構造物など）の反力と応力（軸力、せん断力、モーメント）を算定することができる。	教科書やプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。演習問題の実施と解説を毎回の授業で実施しており、必要なレベルに達していない場合は再提出を求めた。結果として十分な学習到達度を達成させることができた学生もみられた。	授業課題や定期試験を見直した結果、学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が緩和された。	授業評価4.25 回答率70.1% 科目GPA2.67
A232002 住宅プランニング	住宅建築（主に戸建て住宅）の計画に関する専門用語を理解することができる。住宅建築のプランニングがどのように行われているか理解することができる。住宅建築のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	本講義では、住宅をプランニングするにあたっての基礎知識を学習する側面と、それら知識をもとに実際にプランニングする演習的な側面があり、後者に取り組むことで前者がより定着することを意図して展開してきました。ただ、年々、プランニング演習がうまくいかなくなっており、前者を圧縮して後者を手厚くするべきか、後者を体験程度にとどめて前者に重点を置くか悩ましく思っています。今回は教科書で、やや後者寄りの新刊が出たことにあわせて変更し、状況を見守りました。	先述したように、基礎知識と実践の両立が悩ましく、かつ必修科目ゆえに十分な個別のフィードバックが難しい面があります。小テストやチェックシートなどを工夫することで、より実効性ある内容に改善していきます。	授業評価4.34 回答率70.6% 科目GPA1.67
A232005 建築ものづくり広場	目標 建築や生活をものづくりの視点から見つめたおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身につけ、機材を用いて制作を行うプロセスについて体験的に理解します。 教育効果 自らのものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。	2グループに分かれ、木工と左官の2課題を行い、木工の課題「組立式ツールの制作」を担当した。今年度は、1コマから2コマとなり制作する時間にゆとりができ、強度、機能、座りやすさ、美しさがそれぞれ成立するつくりや形態について考えることができた。また学生による授業評価アンケートでは、高評価科目として表彰された。	木工機械やモデリングスタジオを使用できる人数に限りがあるため、履修者が増加場合は、課題内容を再度検討する必要がある。	授業評価4.678 回答率62.2% 科目GPA1.95
A232005 建築ものづくり広場	自らのものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。	半期をとおして3つの課題に取り組むことで、集中力をあまり途切れさせることなく取り組む状況が作れているとおもわれる。ただ、連続して欠席してしまった学生のフォローがなかなか難しく、次年度以降、授業態勢を大きく変更することから、さらに欠席者対応を検討する必要がある。	上記反省を踏まえて、欠席者のサポートを密に行う。3課題から2課題になることもふまえて、脱落者がでないようフォローしていく。	授業評価4.67 回答率62.2% 科目GPA1.69
A232006 建築構造のしくみ	建築物の構造システム・材料種別を理解できる。各種構造物の構造計画の手順を理解し、構造設計ができる。	スライドやプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習と併せて問題の解説を行った。学生との質疑応答を授業内で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。	授業評価 4.38 回答率40.0% 科目GPA2.58
A232007 建築施工	建築物の構築方法について理解してもらいます。各種工法の特徴を知り、適切な工法を選ぶための合理的な判断が出来るように考えてもらいます。 1. 建築物の構築に関わる人について知る 2. 各種の工法の特徴を理解する 3. 建築物を構築するための計画を練る	2023年度は一級施工管理の資格取得を目指している学生から授業内で資格試験の内容を入れて欲しいと希望があり、毎回授業 30分を問題を解き、解説する授業内容を取り入れた。しかし、学生の授業に向かう姿勢に温度差が生じた。結果、希望を伝えてきた学生も問題が難しすぎるとの意見があった。来年度は本来の教科書を中心とする授業内容に戻していこうと思う。	教科書の内容に沿った説明を行うようにしたい。最先端の技術の紹介も昨年度は行ったが、なかなかその面白みが伝えられなかった。その為 基本的な内容を確実に学んでいただけるような伝え方をしていきたいと考えている。	授業評価3.77 回答率44.3% 科目GPA2.11
A232008 建築設計演習Ⅱ	目標 「周辺環境」・「住まい」・「コミュニティ」の関係について考察し、建築設計に反映できることを目的とします。また、構想した空間を相手に伝えるための図面表現力も養います。 教育効果 店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。設計した計画を図面で表現することができる。	旧藤川宿東海道沿いの敷地に店舗付き学生専用共同住宅を設計する課題である。教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行った。周辺環境や地域、人と人の関係性について考えることができた。	エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高め、環境づくりをしていきたい。	授業評価4.36 回答率40.5% 科目GPA2.30

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A232008 建築設計演習Ⅱ	店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。 周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。 設計した計画を図面で表現することができる。	案を決めるにあたって、通常は最も自身が気に入った1案を煮詰めていくのが一般的な方法だが、実際の実務設計では自分の気に入った案が施主に受け入れられることばかりではなく、自身の考え方を変えなければならない場面もたくさんある。そのため、本授業では[簡単な配置平面スケッチ+断面スケッチ]を3案考えさせ、その中のどれをなぜ選択して進めるのか、を各学生と打合せしながら設計を進めていった。 1つの課題に対して、なるべくようなアイデアが思いついた方が素晴らしいので、学生にとって良い訓練になったのではないかと考えている。	手描きで図面を仕上げる規定だったので、CAD・Photoshop・イラレ・3DなどのPC作業はできなかったのだが、コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。 また、模型表現をもっと細かく指導できるように、共通事項を決められないかが今後の課題だと思っている。	授業評価4.36 回答率40.5% 科目GPA4.360
A232009 建築CADⅡ	建築CAD・CGソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築CAD・CGソフトによる2次元および3次元作図ができる。 建築CAD・CGソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。	BIMソフトである「ARCHICAD」を操作して設計する授業。平面図と3Dが連動しており、平面図上で作図すると3Dに反映され、3D上で窓やドアを付けると平面図に反映される。立面図は東西南北の4面が自動生成されており、断面図も平面上で断面戦を入れればその断面図を取り出ししてくれる。 感覚的に設計できるが、非常に高度な設計ソフトなため、操作がとでも多様で手順も複雑な面もあり、毎日触っていないと確実に忘れてしまうため、授業用図面には手書きで操作手順をびっしりと書き込み、1年後に思い出せるようにしている。 学生は、このソフトが使えるようになれば図面表現も外観パース・内観パースもかなりの自由な操作とクオリティが担保できると考えられる。レンダリングもでき、世界中の都市の好きな時間の日照を再現してくれる。 なんとか全員が2課題「2階建て切妻屋根住宅」「4層箱型ビル」をそれぞれ平面図、立面図、断面図、外観パース、内観パース、を全てA3用紙数枚にレイアウトし、連ページPDFデータにできた。	来年は室内照明の設置を授業に盛り込みたい。それができれば、夜に室内が光っている外観のレンダリング画像が作れ、ソフトの能力をこれまで以上に学生が体感できるはずだからである。 CADの授業は、どうしても数週間かかって1つの建築を表現するという連続的な講義になるが、だからこそ1回の欠席でついていけなくなってしまう難しさがある。受講者数が多いため、個人指導に割く時間も通常は無いのだが、どうにかして大勢に作業を進めさせつつ、後れを取っている学生に個人指導する時間を取る、ということをしなければならない。ソフトの操作が複雑なため、短時間で後れを取り戻すのは難しく、何か良い方法は無いものかと悩ましいところ。	授業評価4.29 回答率42.7% 科目GPA4.190
A232011 インテリアデザインⅡ	様々な事例を通して、商空間における必要な機能やインテリアデザインの方法を理解することができる。 商空間における人の寸法と空間の広さについて理解することができる。 用途別商空間のインテリアデザインについて理解することができる。	時間割の影響だと思われるが、受講者数が71名と多かった。受講者数が多いため個人指導向かないので大勢に対して講義することになる。教科書を進めるのだが、教科書内の図版だけでは楽しい授業にはならず、自分で関連する図版や写真やムービーなどの視覚的な情報の提示が重要だと感じており、今後はもっとそのような視覚的な情報を増やしていきたい。	より満足度を確保する策が必要だと考えられる。 個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルやムービーなどを増やし飽きない講義にしていきたい。	授業評価4.49 回答率41.7% 科目GPA4.493
A232012 環境デザインⅡ	省エネに配慮した住宅の計画方法について理解できる。 地域の気候に配慮した建築計画の工夫について理解できる。 自然エネルギー利用の基礎について理解できる。  本講義は、日照と日影、音環境、換気など環境デザインに求められる基礎的事項の習得、環境問題の理解、サステナブルデザインに関する価値観の醸成を目的とします。	日影、音環境、換気など環境工学の基礎的な内容について取り組んだ。計算問題などをふくむ論理的な内容もあることから、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在するものと思われる。 各自地域を設定し、それぞれがエコ住宅を提案する課題では、様々な観点から積極的な提案があった。特に優れたものもあった。	計算問題、図を読み取って算定する課題などについては、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在した。よりわかりやすい説明やフォローなどを心掛けたい。	授業評価4.4 回答率40.0% 科目GPA2.41
A232013 福祉住環境学	高齢者、障害者の住環境整備を福祉、医療、建築の3つの側面から修得するとともに、個別の住環境整備の事例に対して実践的な提案ができるようになります。 現在、高齢者・障害者のみならず、すべての生活者が安心して暮らせる生活環境の整備が重要になっており、それらに係わる医療・福祉・建築についての体系的で幅広い知識と福祉用具や諸施策情報など、看護や保健など各種の専門職の内容についての知識も必要です。高齢者や障害者の住環境の整備に必要な医療・福祉・建築の知識について習得することが期待されます。	履修生48名であった。 履修者に対して、対面授業15回と定期試験（レポート試験）を実施した。課題はすべてUNIPA提出とした。UNIPAで資料を配布し、授業時にはプレゼンテーション資料も提示し重要事項を説明するとともに、授業後に確認できるようにプリントを配布した。授業終了前に○×問題も学生にとらせるなどの工夫した。さらに、予習課題として授業で行う内容について各自で調べることで、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ち授業を受講することができたと考える。	回収率は4割ほどである。授業評価は2022年度より0.3ポイント高くなっている。それに対し、科目GPAは0.3ポイント低い。医療・福祉・建築の幅広い知識と福祉用具や諸施策情報などに多くの事柄について学習するため、授業での質疑応答を十分に行ったが、学生の理解が不十分であったためと考えられる。学生意見により継続的に改善・対応するとともに、様々な知識をむすびつけるよう工夫したい。	授業評価4.463 回答率39.6% 科目GPA1.83

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A232014 建築法規	「建築法規の基礎」を習得の基本とし、建築士の資格取得のほか関連資格(宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等)にも対応できる知識の習得を目標とします。	建築法規が建築士試験でも課されることから、どうしても資格対策として誤認される。そもそもシラバスの文言もそうになっており、カリキュラム再編に際しては、しっかり変更・修正したい。試験問題を解くという彼らにとってわかりやすいネタを入れ込みつつも、そもそもなぜといった建築と法規の関係をわかりやすく伝えていく工夫が必要だと感じた。	上記反省を踏まえて、なぜ大学の講義で「建築法規」を扱うのか。資格試験対策とはどう異なるのか。なぜ法規は必要で、どのような意義があり、どんな限界があるのか、などをしっかり織り込めるよう教材の充実をはかる。	授業評価4.36 回答率42.4% 科目GPA1.65
A232015 建築実験	1) 実験により実構造物の挙動を体感し、崩壊性状を考えることにより、洞察力を涵養する。 2) レポートを作成することで論理的思考ができる。	本講義は1) 理論的講義、2) 実験、3) レポート作成で構成されます。1) および3) は対面式の講義で、2) は実験室で試験体または載荷・測定装置の準備、載荷実験を行います。従来の画一的な実験ではなく、学生自身がディスカッションを行いながら、実験方法から検討するPBL形式の授業としています。履修者人数の関係上2クラスで実施した。	学生の成績状況と授業評価から判断して、当該授業の学修到達レベルに十分な授業ができたと言える。今後はさらに授業に工夫を加えて、より深いレベルまで理解できるようにする。	授業評価4.58 回答率66.7% 科目GPA2.42
A232017 建築設計演習Ⅳ	目標 複合施設の構想力と企画力をつけるとともに、外部環境から内部空間における総合的な計画とデザイン力を養います。多用途の構成される施設のコンセプトから建築への提案として、細部のデザインを表現できる力を養います。 教育効果 コンセプトワークから環境を読みとり建築に導く力と、総合的なデザインによるプレゼンテーション力を習得する。	岡崎の魅力を発信し、地域住民や子どもたちに伝え、後世に継承していくための複合施設を提案する課題である。地域の調査から岡崎の魅力を発見し、その魅力をどのように伝えていくのかを考え、建築への提案として表現することができた。	授業の中で、イラストレーターやTwinmotionのレクチャーを行うことで、表現力が向上し、多くの優秀作品ができた。今後も続けていきたい。	授業評価4.586 回答率48.4% 科目GPA2.71
A232018 木造設計演習Ⅱ	木造住宅の設計技法の習得を目指します。 構法的な基礎知識を得るとともに、図面表現方法を習得し、模型制作を通して立体的な理解を深めます。 伝統木造住宅の意匠や地域素材の活用方法、左官など伝統的な技術についてもレクチャーや調べ学習を行います。□ 木造構法の基礎をふまえ、木造住宅の簡単な設計を行うことができる。	BIMを用いた木造軸組みモデルのモデリングを行った。 前期の木工制作課題につづき、建物全体のつくりを解説し、人力作業を行った。学生の取り組みの意識は高く、積極的に取り組んでいる様子が見えた。 BIMが苦手な学生にとっては、60分授業で説明が行き届かない部分もあり、取り組みにくい部分もあった。	BIMでの軸組みの入力は、模型を制作しなくても構造の全体を把握でき、教育的な効果は大きいと感じた。 一方、コンピューターでの入力方法の理解がしっくりこない学生には、作業がすすまない傾向がみられた。 遅れがちな学生へのフォローをSAなどを活用して行ってゆきたい。	授業評価4.43 回答率40.0% 科目GPA3.14
A232019 現代建築論	達成目標 1. 建築における、デザイン、形態、装飾などに対する知識を広げること 2. 設計製図でのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと 教育効果 日本建築の近代から現代に至るまで、建築家がいかなる建築をデザインしてきたのか、また、その建築が他の建築にいかなる影響をもたらしてきたのかを理解し、自分の設計デザインに生かしてもらいます。	建築家の建築作品について、建築家のデザインの特性、建築作品の空間構成や細部のディテールを分かりやすくするために、映像や写真での解説を主体にしており、学生からの意見は好評なので、このままの授業スタイルを継続していきながら、作品紹介でアレンジを加えていきたい。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていました。 建築界で活躍している建築家の意図や作品の特徴について、写真や図を多く使うように心がけ、見た目でもわかりやすいように工夫しました。 今後はさらに、学生からの質問や興味のある内容について、コメントが出せるように課題プリントに記載できる欄を設けたいと思います。	授業評価4.55 回答率45.8% 科目GPA2.97
A232020 建築CG	建築設計の現場では、様々なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討、イメージの伝達に役立っています。今後もこうした傾向は強まり、より高度な建築CG表現が求められるものと考えられます。本授業では、これまでに学習した建築CADおよびCGの基本的な操作技術を踏まえた上で、社会において求められる高度な建築グラフィック表現を修得することを目的とします。	数年前までは2コマ連続していた授業であったが近年1コマの授業に変更された。1コマ授業が連続して2回あり、それぞれの受講者は異なる別の授業として運用した。昨年度よりは学生を2つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなくなったので授業の進みは良くなった。学生1人1人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。	より満足度を確保する策が必要だと考えられる。 個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルやムービーなどを増やし飽きない講義にしていきたい。 この授業ではPhotoshopをメインソフトとして運用しているが、今後はソフトの契約更新はしなくしていくとのことだが、教員席にはadobeソフトはインストールされていないと授業が成り立たなくなってしまう懸念がある。	授業評価4.40 回答率47.2% 科目GPA4.540
A232022 建築と経済	建築の生産、経済、積算に関する専門用語を理解することができる。 建築積算の基本的な仕組みと手順について理解することができる。 これからの建築や建築業について経済的な観点から意見を述べるることができる。	建築経済学がカバーするひろい学問領域をふまえて、なるべく学生が飽きないような授業計画を心掛けた。とはいえ、そもそも講義を聞く姿勢が不十分な学生が多いため、講義とワークの組み合わせを今後もさらに模索する必要がある。5名前後は講義を聞く姿勢ができていることを踏まえると、どの層に向けてどのような配慮をしていくかが、今後ますます難しくなると思われる。	単発かつ短いインプットのもとに問題を解くことに慣れすぎてしまっているため、そうした姿勢にあわせてつつも、そうではない学びをどう進めるかが難しい。いろいろなスタイルをミックスしながら授業展開を検討していく。	授業評価4.17 回答率47.1% 科目GPA1.88
A232023 居住文化論	居住文化に関する専門用語を理解することができる。 居住文化を異なる時代や地域、社会のなかで多面的に理解することができる。 これからの居住文化の可能性と問題点について意見を述べるることができる。	同じ期に3年生対象科目が3つ並行することから、それぞれの科目で多少なりとも性格が異なるように配慮した。本講義では、教科書、パワーポイント、映像資料などをミックスしながら講義を進めた。ただし、質的な議論を多く含む内容は、楽しめる学生とまったく乗れない学生に両極化してしまうので、後者へのさらなる配慮が求められる。	筆記試験の平均点が予想以上に低いものとなってしまった。本学での教育を通して、以前は試験勉強等の対応が多少なりともできていた学生が、まったくそうした準備をしない習慣になってしまっているのではないかと強く懸念している。来年度は、折に触れて復習・見直し・試験勉強の必要性と意義を説いていく。	授業評価4.36 回答率45.6% 科目GPA1.15

令和5年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A232025 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。</li> <li>研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。</li> <li>設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。</li> </ul>	<p>個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。テーマは、前期を深める内容とし、可能な範囲で現地での調査に同行した。</p>	<p>特に授業の進め方に問題はないようであった。今後は、与えるだけの授業にならないように、適宜コミュニケーションも取りながら、適切な意見や質疑をしながら、学生自分自身で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>	<p>授業評価4.60 回収率14.3% 科目GPA3.86</p>
A232026 卒業研究Ⅱ	<p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p> <p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。</p>	<p>指導に従って手際よく研究をすすめられる学生一方で、テーマや方向性などをまとめることが困難であったり、作業進行が遅い学生も存在した。授業時間外も含め適宜指導を行いながら最終的なとりまとめが行えるようサポートしたい。</p>	<p>授業評価5.00 回収率12.5% 科目GPA3.14</p>
A232027 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。</li> <li>研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。</li> <li>設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。</li> <li>建築に関わる安全性、機能性、デザイン性、経済性、快適性などの諸課題への合理的な解決策を思考する力を身に付ける。</li> <li>収集した情報や知見を整理、分析し、とりまとめる力、制作する力を身に付ける。</li> <li>自らの研究内容や考えについて、言語化、図化、立体制作、デジタル表現など様々な表現方法を用いて他者に説明できるようにする。</li> </ul>	<p>4名とも設計と言うことで各自それぞれのアイデアを形にしていた。やや物足りなさは感じるが、各自の努力の跡を感じることができた。平凡な中にも遊び後ごろのある作品が見ていて楽しい。次年度も良きアドバイスができるよう建築についての知識も更に深めていきたいと考える。</p>	<p>各自のアイデアを形にするためには様々な知識と経験も必要であること。身近であることなどの注意点をアドバイスしていきたい。</p>	<p>授業評4.50 回答率50% 科目GPA2.0</p>
A232028 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。</li> <li>研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。</li> <li>設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。</li> </ul>	<p>毎回それぞれの学生の発表を中心に授業を進めたが、後期になると進捗状況や製作に向かう意欲も異なりなかなか同じように進めることが難しく、2グループに分けたが、そのグループ毎に進捗状況がさらに異なってしまった。進んでいるグループでは意見が活発に出され充実した作品までの過程が楽しめているようだったことがとても良かった。外部の先生も加わり、意見交流をすることで完成度が高まった。</p>	<p>学生の進捗やモチベーションに合わせて対応をしていきたいと思う。ゼミ内だけでなくいろいろな方の意見も取り入れられる研究にしていきたい。</p>	<p>授業評価5.00 回答率18.2% 科目GPA3.18</p>
A232029 卒業研究Ⅱ	<p>目標 卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p> <p>教育効果 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>卒業設計・制作に取り組み、それぞれのテーマに至った背景とコンセプトを整理し、設計・制作を行い、その内容を説明することができた。ゼミでは、自身のテーマだけでなく、他学生のテーマについても発言する機会を設け、自分の意見が言えるように促した。</p>	<p>国土地理院から計画敷地のCADデータを取得する方法がわからず、そこに時間をとられた学生が多く、エスキースの時間がとられてしまった。また、イラストレーターを使用することがない学生が多く、プレゼンボードの完成度が不十分であった。建築設計演習の授業の中で、CADデータの取得や、イラストレーターを使用したプレゼンボードの作成を経験させるようにしていきたい。</p>	<p>授業評価4.533 回答率27.3% 科目GPA3.27</p>
A232030 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。</li> <li>研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。</li> <li>設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。</li> </ul>	<p>授業の性格上、個別指導となる。全体的には、研究成果をレポート化するともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。</p>	<p>研究の進行および達成度にばらつきが見られた。遠隔授業での研究指導方法を再考する必要がある。</p>	<p>授業評価4.80 回答率14.3% 科目GPA3.71</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A232031 卒業研究 II	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることや、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究 I で行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの講読などから得られる知見を総合的にまとめあげることが目的とします。	履修者数9名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であったことに加え、履修生は積極的に取り組んでくれた。 履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。	今年度は科目GPAが低かったが、回収率は28.6%から44.4%と高くなっている。授業評価も昨年度の4.500より高くなっており回収率から考慮すると目標達成ができたといえる。しかし、科目GPAが低い。研究論文が得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価4.90 回答率44.4% 科目GPA1.11
A232033 卒業研究 II	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。 図版などの視覚的な情報の提示が重要なため、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。 後期では全員が卒業設計を選択した。課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。 しかしながら、図面と模型は提出はできたが質が伴っていない学生が多く、スケジュール配分に問題があったものと考えられるため、来年はスケジュール管理を強化していきたい。	達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業での会話は必要であると考えられる。 教員も学生側も、毎週対面で会話ができ、安心したと考えられる。 来年以降も通常授業に戻っていくことを期待したい。 4年生ということもあり、登校の日はこの授業しかない学生が多いため、欠席過多にならないように5回ぎりぎりまで休む学生もいて、他の学年の教科と違い欠席率が高かった。欠席が多いとその分進みが遅い傾向にあり、卒業研究の質の向上に繋がらないので、どうやって登校させたらよいのかが今後の課題である。	授業評価4.40 回答率27.3% 科目GPA4.4
A232034 卒業研究 II	・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	学生層が大きく変化した上に、コロナ対応授業を通過したことで、取り組みの密度が低くなっている。従来、卒業研究に取り組むことで培われてきたものうち、どこに重点を置き、どの部分をあきらめるか、あるいは広く浅くするべきか、悩みながらの1年間だった。結果的にあはちとらずとなった感否めない。	今回の反省を生かして、次年度では、卒業論文とはどういうアウトプットなのか。どういった組み立てでできているのかを強く意識してもらいながら、「考え方を学び、実際にやってみる」を重点的に行いたい。 なお、この授業評価の数値は推察するに完全に「お礼=お祝儀評価」であって、質問項目に沿って「評価」がなされたものとはいえない。正しい授業評価を行うよう促すのは並大抵の努力では実行できない悩ましい問題だと考える。	授業評価5.00 回答率54.5% 科目GPA2.29
L232001 プレゼンテーション ツール A1	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	教科書の例題を中心に解説し学生に対して授業内課題を求め、授業外課題も求め毎回課題提出がある科目である。 プレゼンテーションの発表はクラス全員に行わせ審査の一部も学生に担ってもらった。発表する形も学修したが学生はそれなりに楽しんでいるように見られた。 授業のビデオをユーチューブにアップし、unipaにリンクを張っているが利用する学生は小数であった。	プレゼンは小学校からやっているの得意と思ったら、全然駄目であった。また、エクセル、ワードも高校で学習しない。	授業評価4.17 回答率78.4% 科目GPA2.51
L232002 プレゼンテーション ツール D1・A2	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	教科書の例題を中心に解説し学生に対して授業内課題を求め、授業外課題も求め毎回課題提出がある科目である。 プレゼンテーションの発表はクラス全員に行わせ審査の一部も学生に担ってもらった。発表する形も学修したが学生はそれなりに楽しんでいるように見られた。 授業のビデオをユーチューブにアップし、unipaにリンクを張っているが利用する学生は小数であった。	GPAが今一つである。欠席者が多いので何らかの工夫が必要である。人前で発表する力も必要である。	授業評価4.34 回答率66.0% 科目GPA2.07
L232008 統計学 A	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。2023年度は、有効数字の取り扱い方法について繰り返し説明するようになってから3年目である。このため、多くの受講生が有効数字を正しく扱えるようになってきた。履修登録した47名中、7名が不合格(D,E,F評価)であった。	統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。建築学科用クラスの不合格率は2021年度27%、2022年度14%、今年度15%と、ここ2年は15%前後である。次年度は不合格率がさらに低くなるようわかりやすい授業にしていきたい。	授業評価4.30 回答率81.2% 科目GPA2.79

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L232013 英語コミュニケーションB A1, D1	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者が53人で、対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をP Pの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題（授業内課題）を配布し、次週、その課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題（授業内課題）を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	3人の履修者に対して、対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などを取る時間を取ることができなかった。それでも、学生（回答率66.0%）の本授業に対する満足度（評価）は比較的高かったため、今後は、受講者を40人以下に制限して、学習意欲溢れる留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語力を伸ばすことを目指したい。	授業評価4.263 回答率66.0% 科目GPA1.52
L232020 スポーツB A, D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えた。	S9名、A5名と評価の高い学生がいた一方、B7名C8名、D2名、E2名と十分でない学生も少なくなかった。 楽しみながら学べた部分と、技術が十分に身につかず、達成目標を十分に達成できなかった学生がいたと考える。 達成目標を達成できるよう、丁寧な指導を心がけたい	授業評価4.34 回答率80.4% 科目GPA2.21
L232022 スポーツB アーチェリー	アーチェリーの基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 「ルール」・「マナー」・「安全管理」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。	アーチェリーの知識をレポート作成することで明らかにし、実技を通して射法、ルール、安全対策を身に付けることができた。レポート作成と実射時間の比率を、実射に重きを置いたところ、全員が、最終的に12mの距離からの狙って矢を放ち、得点帯の中に入れることができた。集中授業ということで、体力がない学生は苦しい状況になるが、時間的な間隔を取り、解説しながら進めたことは効果が上がった。	今年度は11号館の室内アーチェリー場を使用し、より安全な状態で行うことができたことはよかった。授業評価は4.88と高評価だったが、受講生7名中「E」の学生が2名、他はA3名、B2名となった。レポート中心の評価をしたことで、提出状況も芳しくなかったことから全体の科目GPAも低くなったように思う。実技科目ということで、次年度は、実技に重きを置いた評価に変更するとともに、レポートを期限内にしっかりと提出させる工夫と体制をとっていきたい。	授業評価4.4 回答率66.7% 科目GPA3.67
L232035 キャリアデザインII A	企業研究、応募書類作成と模擬面接をより実態に即したかたちで体験し実際の就職活動に応用すること、また卒業後の社会人としてのキャリア形成に必要な知識を身につけることを目的とします。具体的な学習内容として、①企業研究、②企業と自己のマッチング、③応募書類作成（履歴書とエントリーシート）、④模擬面接（個人面接）、⑤社会人基礎力育成⑥就職後の備え（労働条件、社会保険、公的年金など）を含みます。	個人面談の回数を多くし、自身の表現方法について考える機会を多く取った。そのことで就職活動だけでなく今後の人生を考える有効的な時間が取れたのではないかと感じた。特別配慮の学生は伊澤先生に対応をいただき2グループでの対応をした。そのことで特別配慮の学生にも細やかな指導ができたと感じている。	来年度も自己表現の方法について考えることができる授業にしていきたい。	授業評価4.73 回答率40.5% 科目GPA3.49
L232040 中国語B AD	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。 中国語の文法の基本知識を応用できるようになることを目的とします。 中国語のそのものを勉強するだけではなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができる。	ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常的身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、授業で練習できなかった分をカバーすることができた。	昨年の回答率、評価授業評価4.5944（4.6 4.5 4.6 4.7 4.6） 回答率69.2%。比較すると、アンケートの回答率は下がったが、高い評価になった。 中国語Aを未取得の学生が多い状況で授業を難しく感じている学生もいるので、具体例の解説を増やすなどの対応を行い 今後、改善或いは考慮して授業を実施していこうと考えているが、今後中国語Aを取得することを必須条件とするべきか考え中である。	授業評価4.8 回答率37% 科目GPA2.49
Q232003 教職論	職について関心をもち、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容・研修等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントをを行うことの意義を理解する。現在の学校現場が抱える多様な問題の状況を把握すると同時に学校の教職員構造の転換（チーム学校の実現）の方策についても理解する。教育課程の意義、教育課程の歴史の変遷、果たす役割をとらえ、学校における教育課程の編成の重要性をとらえるとともに、新しい学力観に基づいた教育課程の方向に関心を持って対応できる能力の育成を図る。	教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について多角的に考察する機会を設けたが、グループワークや発表の時間を十分にとることができず、自ら教員として、当事者として実践的な教育上の課題について取り組み姿勢や態度を育成できなかったことが課題である。	教員の職務内容や教育上の課題等について、具体的実践的に理解できるように演習やグループ討議などを行い、当事者としての意識を持てるように授業計画を工夫する。	授業評価4.6 回答率89.5% 科目GPA3.5

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
Q232004 教育方法論	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」とされていた総合的な学習は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」とより明確化された。この授業では総合的な学習の時間の目標、評価について意義、計画、指導、評価に関する基本を身につけることを目標とする。	授業計画で、前半は講義形式で、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、後半は演習形式で学習指導案の作成、ミニ模擬授業の実施で学生は主体的に学習を進めることができた。時間不足もあり、総合的学習の時間の学習指導案の作成などについては不十分であった。	今後、現場で必要が高まるICT機器を実際の授業にどのように取り入れていくか、学習計画での導入のプラン、実際の模擬授業での使用法などを身に付ける場面を多く取り入れていきたい。総合的な学習については、なかなか学習の場を学生には想起できないので、学校現場の授業記録動画などを視聴させることによってイメージさせたい。	授業評価4.9 回答率50.0% 科目GPA3.2
Q232009 教職実践演習（高）	①教員としての使命感や愛情をもって、生徒の指導に携わることができる ②適切な生徒理解のもとに、教育環境に配慮し、学級経営の見通しを持つことができる ③教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる ④教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる ・教職課程の履修全体を通じて身につけるべき、教員としての資質・能力の最終的な形成と確認を行う	今年度はみあい特別支援学校の学校訪問を計画した。最新の情報を学習するとともに教員生活や普段の児童生徒の様子も細かく伺うことができた。担当の教頭先生に感謝したい。学生たちにも現場の先生方が生きがいとやりがいを持って仕事に従事している様子や「子どもが好き」という部分が十分に伝わったと感じた。最後のPPTを使った発表もそれぞれの個性が出て良かったと思う。今後も磨きをかけて進めていきたいと思う。	毎年、県内の特別支援学校に学校訪問をさせていただいている。高校とは違う雰囲気の中でも先生方が生き生きと活動して見える姿や子どもたちの純真な姿を実際に見ることができ意義は大きいと考える。次年度は岡崎特別支援学校が美合に移転してくる。可能であれば、新しい校舎や先生方の姿を見学できるように取り計らっていきたい。	授業評4.5 回答率44.4% 科目GPA2.0
Q232009 教職実践演習	教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認することを目的とする。	教育実習を全員が無事終了し、教師としての自信と自覚が多くの学生が持つことができ、授業における様々な事例研究の議論や発表において教師としての見方、考え方で進めることができるようになった、しかも内容は実践的で中身の濃いものであった。	大学の校内の授業では、この科目の意図である現場ですぐに活動できるスキル・知識を育成することに限界もあり、今後は校外の授業の研究発表会への参加や高等学校訪問など機会を現状より多く設定したい。	授業評価4.5 回答率44.4% 科目GPA3.2
Q233001 教育実習	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導論との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。	授業評価4.6 回答率44.4% 科目GPA3.2
Q233002 事前・事後指導	教育実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にします。外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて行います。教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。教育実習をスムーズにできるようにすること。	少人数で教育実習を直前に控え、学生も欠席もなく前向きに取り組む、学習指導案の作成、模擬授業なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	最近の学校現場を踏まえた授業形態、特にICT機器（実物投影機、タブレット、パワーポイントなど）の効果的な利用法を、講義だけでなく実際に使用させる授業も取り入れていく。	授業評価4.3 回答率33.3% 科目GPA3.0
U232001 世界の美術 A, 過年度生	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度5年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個人がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者数73名のうち49名が回答した。アンケート項目のうち、2番のみ4を下回っているが、シラバスの達成目標に対する達成度を測る内容であることから、達成度の向上に留意したい。授業資料の充実と毎回の課題によって、一定の評価につながるよう配慮したい。できる限り質疑応答や発表の時間を設け、自ら主体的に学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評4.033 回答率67.1% 科目GPA2.50
U232003 アート表現演習	アート制作を体験することで視覚的、体感的な学びの機会としてもらうことが目的。	思考より体験を優先することで、アートを身近に感じ世界を広げてもらおうと考えているのだが学生の興味に響いてない感覚がある。課題の改善が必要だと考えるが、それが解決につながると思えないところが問題。	課題は悪くはないが学生の興味を刺激できるような展開を新たに探したいと考えている。	授業評4.38 回答率49.4% 科目GPA2.55
U232003 アート表現演習	①モチーフを画材を用いて描写することができる。 ②配色や平面や立体の構成によって感情を表現することができる。 ③計画性をもって作品の制作を遂行することができる。	デザイン教育の基本として、指示されたモチーフ（対象物）を各自が、鉛筆や絵具で画用紙に描写する実習を通し、色や形、材料や技法について段階的に学習できるように複数の課題を設定し、各課題の導入ではデモンストレーションや作例紹介を行い、制作途中では各自の能力に応じた助言を通して、観察力と表現力の向上を促した。	履修登録者数164名のうち、81名が回答した。回答率が半数以下であるが、一定の評価を得られたと考える。課題制作過程における、教員による適切な指導を行い、提出課題に対する効果的なフィードバックにより、教育効果を高められるよう、次年度以降も工夫を重ねたい。	授業評4.38 回答率49.4% 科目GPA2.55

令和5年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U232004 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現況を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度で5年目の開講となる共通科目である。三河地方の「ものづくり」に関する講義に加えて、「ものづくり」の一線で活躍している方々としてお招きしたゲストスピーカーが、ものづくり産業の具体的戦略の立案・実施に関するレクチャー、および受講生の地域活性化のための提案作成についてのアドバイスをを行った。さらに、受講生が主体的に調べ、考えたことを、発表資料としてまとめ、毎回、課題を作成することで理解を深めることができた。	履修者72名のうち46名が回答した。昨年度は回答率が半数に届かなかったが、今年度は回答率が増加したものの、評価はほど同じであったことから、一定の評価を得ることができたと考えられる。理解の定着を図るための課題の内容を改善し、ゲスト・スピーカーについても最善の人選を行っていきたい。	授業評価4.348 回答率63.9% 科目GPA2.19
U232005 三河のまちづくりと観光	観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる。観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。	教員2名（高木先生と）による授業で、3学科共通科目であり、それぞれが学習する専門分野の素材としてまちづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえたうえで、それぞれの学科の特徴を開ける授業である。建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、ゲストスピーカーの先生方（地域で活躍する方から直接話を聞ける）ことに大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地或いは公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいて提案をし、発表できたことにより、今後社会人となってから必要となるプレゼンテーションについても取り組むことが出来てよかった。	昨年の評価は評価4.372（4.4、4.2、4.3、4.5、4.4） 回答率58.0%と比較すると、アンケートの回答率は下がったが、評価はほぼ同じでした。概ね良好な評価を得たので、これまでと同様の方式で続けていきたい。授業アンケートの結果などを参考に、3学科の学生が満足できる授業を目指したい。また3学科の学生それぞれが関心を持つ事について考慮しながら、学科を超えた学生同士の交流ができるような授業を工夫していきたい。	授業評価4.375 回答率32.7% 科目GPA1.84
U232006 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現況を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度本科目担当に復帰し、一部のゲストスピーカー招聘担当も担った。今年度は総合経営学科の留学生を中心とした過年度生の履修が目立っていて、制度の盲点を突かれた様な思いであった。	授業評価 4.348 回答率 63.9% 科目GPA 2.19 履修者が多かったためプレゼンの実施がかなわなかった。また過年度生の履修が増えたことは、共通科目としての本科目類の制度設計の問題点をあぶり出した感否めない。	授業評価4.348 回答率63.9% 科目GPA2.19
U232007 マーケティングと広告	①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。	事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近で、かつ3学科の専門領域と密接に関係している学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。広告賞を獲るなど評価の高い広告の事例を紹介し、関心を高めると同時に、理解を促すよう工夫をした。	現在の潮流に合わせ、デジタルマーケティングやインターネット広告の説明をより詳しく行う。また紹介する事例は鮮度を重視し、学生が関心を持てるようにタイムリーで最新のものに更新する。	授業評価4.40 回答率69.6% 科目GPA2.55